

ことにより、未着・欠号管理から支払管理、製本作業までトータルに管理することが可能となっています。このようにiLiswaveでは1つのデータを活用し、連携させることによってさまざまな機能を実現しています。

3. 外国雑誌前払システム

この外国雑誌前払システムは、全学の外国雑誌の購入状況を把握することができます。前金払の外国雑誌については発注から入札・契約、精算・戻入のデータを一括で管理します。

従来、この作業は汎用機を用いて行っていたが、新システムではサーバ・クライアント方式を導入し、各部局からデータの入力や帳票出力をオンラインで行えるようになりました。また、このシステムは契約用データを扱うという事情から、iLiswaveとは独立して稼働しています。

このシステム導入の影響は予想以上に大きく、例えば、精算処理を行う場合、従来ではデ

ータシートの提出からデータ入力、入力確認までは1週間から10日を費やしていましたが、新システムではたったの数十分程度で済むようになりました。

4. 今後の運用と課題

以上のように新システムには多くの便利な機能が提供されており、これらの機能を十分に活用することが必要になります。

しかし、運用する図書館員にとっては、従来独自に行っていた手作業中心の管理から、パッケージで提供される機能での機械管理へという大転換が求められることとなりました。

今後は、システムの安定稼働とともに、更なる機能の充実が望まれます。また、従来の運用をそのまま踏襲するだけではなく、iLiswaveの機能を100%引き出すような新しい運用を模索する必要があるのではないのでしょうか。

(とみおか たつじ：収書システムWG

附属図書館情報管理課受入掛)

新しい目録業務システムについて

赤井規晃

ここ数年のインターネットの発展には目ざましいものがある。その影響は、図書館の世界でいえば、wwwを介したOPACの提供が標準化していることから、十分窺い知ることができるであろう。さらに、国内各大学の図書館が提供しているそれらOPACの基盤を成す学術情報センターのNACSIS-CATシステム(オンライン・ネットワーク方式による全国規模の共同分担総合目録データベース)も、平成10年1月よりサーバ・クライアント方式のNACSIS-CAT2のサービスを開始し、従来のメイン・フレームからオープン・システムへの移行を着実に進めており、インターネット時代に対応した図書館業務システムは各大学図書館の最も関心ある課題となっている。平成9年度のリプレイスで京大図書館が、NACSIS-CAT2の接続第一号館となり、全面的に利用したトータル図書館システムを全

国に先駆けて導入することとなったのも、上述の動向に沿うものである。昭和60年の本格的電算化の開始以来、二度のリプレイスを経て、NACSIS-CATと密接な連携をもつ全学的な目録業務システムの基盤は整備されてきてはいたが、今回の新システムの導入により、より効率的な目録業務を行える環境が整えられることとなった。改善点は多々あげられるが、ここでは、データベースへの目録登録作業に関わる部分で簡単に紹介しておく。

NACSIS-CATへの書誌・所在データの登録・更新処理が、ローカル目録ファイルに即時的に反映されるようになった。これにより従来ホスト上で夜間バッチ処理によるデータの落とし込みをしていたのが不要となった。

NACSIS-CATおよびローカル目録ファイル双方への所蔵レコードの一括登録・更新処理を

行う自動化機能を新たに追加。数百件から数千件程度のデータ処理がクライアント側からも可能となった。

データの入力に要する時間の短縮と正確かつ迅速なデータ入力のために工夫をこらし、例えば、ロシア語や北欧諸語、タイ・ベトナム語等キリル文字やEXC文字と呼ばれる音標符号付文字を使用する書誌データの編集においては、ソフトキーボード（ソフトウェアにより仮想的に複数の鍵盤を扱えるようにしたもの）を用いて、英独仏語の場合とほぼ同程度の時間で入力を行えるようにした。また、業務間（特に受入業務との間）でのデータを共有することにより、データの転記ミスから誤ったデータが作成される可能性が極力排除されるようになっている。

クライアントOSにWindows95を採用したことでインターネットの利便性を活用できる。GUI環境の特性を生かした効率的テキスト編集、電子化された各種カタログリング・マニユ

アルや目録規則、webベースの海外の国立図書館・大学図書館等のOPAC等をブラウザで同時参照しながら目録業務が行えるようになり、カタログリングの効率が大幅にアップした。同時に、全学60余の図書館・室の円滑な連絡・調整等のために、目録業務担当者のメーリングリストを設置し、目録業務用webサイトを開設するなど担当者間での情報交換を促進するための工夫もこらしている。

最後に、今後予定される機能として多言語対応がある。2000年1月より、NACISIS-CAT2はデータベースでISO/IEC10646 UCSを採用しマルチバイト文字を統一的に扱える環境を整備する予定になっているが、これに合わせて、中国・韓国・朝鮮語資料等の入力を行える環境の準備も現在進められている。

以上が、新しい目録業務システムの特色となっている。

（あかい のりあき：目録システムWG

附属図書館情報管理課目録掛）

iLiswave閲覧システムについて

蒲 彰 子

閲覧システムというと、図書館関係者以外の方は、資料を見る際の何か画期的な方法かと期待されるかもしれませんが、ここでは、閲覧に供する資料をコンピュータを利用して貸出・返却する仕組みのことを指します。

本を貸してもらおうとカウンターにやってきて、図書館員に学生証と本を差し出すと、一瞬気まずい沈黙があり、「延滞している本がありますね。ペナルティーがついていて新たに本は借りられません」と言われてギクッとしたことはありませんか？そんなことがたちまちわかってしまうのも、閲覧システムが導入されているからなのです。

このシステムでは学生証についている図書館利用証のID番号を読み取ると、借りている本の一覧（期限日等も含む）が表示され、本につ

いているバーコードラベルをスキャンすれば、通常ほんの数秒で貸出・返却手続きが済んでしまいます。コンピュータ・ネットワークの障害時にも、オフラインで処理できるようになっており、図書館員をパニックから救っています。

なかなか本を返却してくれない利用者のリストもたちどころに作成され、さらに督促用のハガキも印刷されます。一方、その本をずっと前から予約して待っている利用者には、貸出可能になったことを知らせる予約棚リストが役に立ちます。

利用者の中には、個人情報も一覽できてしまうシステムは問題があるのではないかと懸念される方もあるかもしれませんが、しかし、この閲覧業務用端末はカウンターの中にあり図書館員以外が操作することはありません。教室図書